

明治大学 2019 年度【春期】 国際化サポート海外留学奨励金 留学報告書

研修先名	スペイン・バルセロナ自治大学
所 属	商学部 商学科 2 年

留学先での学習(実習)内容およびご自身の学習成果について記載してください。(250~300 字程度)

研修参加当初はホストマザーのスペイン語がほとんど理解できず、語学学校では自分の語学力に引け目を感じてアクティビティへの積極的な参加もできずにいた。そのような状況で 1 か月過ごすというのはとても不安だった。それでもホストマザーや先生が聞き取りやすいようにハッキリと発音してくれたり、私の言葉を待ってくれたり、友達と励まし合ったり、たくさんの支えがあり少しずつ自信を取り戻すことが出来た。日々の会話や授業で毎日多くのスペイン語に触れ話す機会を得られたことで、研修の最終週には学校の口頭試験で自分の考えを伝える事ができたり、ホストマザーへの感謝の言葉を述べる事ができたりと、語学力の向上を感じた。さらに今後の学習意欲の向上にも繋がったと思う。

課外活動等、授業以外の時間にどのような経験を得ることができたか記載してください。(250~300 字程度)

放課後と休日には仲間と時間の許す限り観光をしていた。サグラダファミリアやグエル公園などの世界遺産を見学し、建造物の緻密さや力強さ、自然の雄大さを感じたり、観光地の現地語表記のパンフレットや展示に挑戦して自身の語学力を測ったり、様々なことを経験した。また奨励金を受給したことがバルセロナ市内だけではなくマドリドや隣国に足を延ばす後押しとなった。金銭面がある程度保証されていたことで、多くの新しいことに挑戦できた。それは留学経験が無く日本でしか生活したことのない自分にとって、かなり刺激的だった。奨励金のお陰で、今まで経験したことのない程充実した毎日を送ることができた。とても感謝している。

滞在先・現地での生活に関する経験・感想について記載してください。(250~300 字程度)

現地での生活は日本での生活を考えさせられた。バルセロナでは水不足が問題となっており、ホストマザーから水の使い方を注意されることが何度かあった。節水に対する意識が日本よりもはるかに高いと感じた。日本での自分の水の使い方を見直す良い機会となった。また、スリへの注意が散漫になっていた頃にメトロで被害に遭いかけたことで自己防衛の重要性に気づかされた。電車で眠っていたり、荷物で場所取りをしても、スリの被害に遭うことが少ないのは日本の良いところ。しかしもし被害に遭っても、その自己防衛の甘さでは文句は言えないと思った。自分のことは自分で守らないといけないと身を持って学んだ。異国に触れたことで得られた学びを、日本の生活にも活かしていきたいと思う。

今後の展望・目標について、留学前と後での変化も含め記載してください。(250~300 字程度)

研修参加前は自信を持てずに、あらゆることに対して消極的になってしまう自分がいた。研修に参加することも迷っていたが、思い切って参加して本当に良かったと思っている。現地で生活するうえで苦労することはもちろんあったけれど、それ以上に得たものが多かった。語学力の向上だけではなく、異文化に触れ合うことで日本の良い点・悪い点を見出すことができたり、新たな知識や教養を身に付けることができた。スペイン語でもっと自然なコミュニケーションを取れるようになりたいと自分の中で具体的な目標が定まり低下しつつあったスペイン語学習への意欲を取り戻すこともできたので、今後も積極的に学んでいきたい。そして語学面だけではなく、研修で得た経験をもとに多角的に物事を捉えられるようになりたい。

写真貼付 (1 枚)

※研修先で撮影した写真を 1 枚 (1MB 以内) ご提供ください。撮影場所・写真の説明も記載してください。

モンジュイック城へ行くゴンドラからのバルセロナ



【注意事項】提出された留学報告書は、次年度以降の短期海外研修の募集および未来サポーター募金事業の広報を目的に、原則として当原稿をそのまま外部に公開いたします (学生番号、性別、生年月日、連絡先は公開しません)。

【写真提供の注意事項】※ご提供いただいた写真は、大学の広報誌やウェブサイト、募集説明会の際利用するパワーポイント等、様々な媒体で広く広報に活用させていただく可能性があります。複数の方が写っている写真をご提供いただく場合には、写真撮影の際にその写真に写る方に本学への写真提供について許可を得ていただいたものをご提供ください。